

平成24年度 相馬市公立学校研究指導委員会 個人研究計画原案

相馬市立大野小学校 遠藤 知美

全体テーマ	児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成 ～言語活動の育成を通して～
-------	--------------------------------------

自己テーマ	視点を明確にした読む・話す・書く活動を通して、思考力・判断力・表現力を育むことができる授業
-------	---

1 単元名 「持続可能な社会」への取り組みについて調べよう ～『未来に生かす自然のエネルギー』～

2 研究テーマとの関連と単元設定の理由

<指導員会の研究テーマとの関連>

指導員会の研究テーマは、「児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成 ～言語活動の充実を通して～」である。話し合いや学び合いで高め合うためには、①魅力ある課題の提示、②ねらいに結びつける視点を明確にした言語活動が重要な鍵となることから、児童が何のためにこの教材に取り組むのか(魅力ある課題)、誰に向けての発言や資料作りなのか(視点を明確にした言語活動)といった目的意識や相手意識を明確にして話し合いや学び合いを進めていくことで、思考力・判断力・表現力を育てることができるのではないかと考えた。

<教材のもつ価値>

環境問題が叫ばれる中、「こまめに電気を消す」等、環境のために実践している児童は多い。しかし、東日本大震災を経験した後であっても、エネルギー問題の切実な現状は実感できていないと考えられる。本教材を通して、今のエネルギー問題の実態を理解し、「持続可能な社会」の実現のために、未来を担う者として何をすべきなのかを必然的に考えるよききっかけとなる教材であると考えられる。また、説明文の読み取りとリーフレット作りをすることで思考力・判断力・表現力を育む上でも適した教材と言える。

<指導の概要>

この教材は自然のエネルギーの活用についてリーフレットにまとめることを学習のゴールに設定している。説明文で資料や具体例に注意して筆者の意見を読み取り、次の段階で、自分の課題を調べて情報を整理し、リーフレットにまとめて交流する、という流れになっている。

文章を読み取る学習では、資料や具体例の使い方とどんな効果があるのかについて友達と考えを交流させる中で、言語活動の充実を図っていきたい。また、リーフレット作りでは、自分の調べたことを相手に分かりやすく伝えるにはどう工夫したらよいかを意識させたい。そうすることで、思考力・判断力・表現力を育てていきたいと考える。

3 単元における指導内容

(1) 国語への関心・意欲・態度

- エネルギー問題に関心を持って読み、必要な情報を得るために進んで複数の資料で調べようとしている。

(2) 読む能力

- ◎ 資料や具体例の示し方に注意しながら、筆者の意見を読み取っている。
- ◎ 自分の課題を解決するために、複数の資料を読んで情報を得ている。
- 自分の課題を解決するために、資料の特徴を生かして選んで読んでいる。

(3) 書く能力

- 書く材料を決め、複数の資料から書く事柄を集めている。
- 資料の示し方や具体例の挙げ方を工夫してリーフレットにまとめている。

4 育てたい思考力・判断力・表現力

- 資料や具体例と叙述を照応させ、その効果を考える。 思考力 判断力
- 筆者の意見から自分の考えを持たせる。 思考力 判断力
- 自分の課題解決のために情報を収集をする。 判断力

- 相手に自分の伝えたいことが分かりやすいリーフレット作りとその発表をする。 **表現力**

5 「言語活動」の工夫 (的確に理解し、論理的に思考し表現する力、互いの立場や考えを尊重して伝え合う能力を育成する 他)

- 資料や具体例と叙述を照応させ、その効果について根拠を明らかにして述べさせる。
 - 筆者の意見の読み取り。
 - 相手に分かりやすいリーフレット作り。(資料の活用と書き方)
 - 「今の自分にできること」等、自分の考えの発信。
- ワークシートの活用
学習形態
付箋紙の利用
複数の情報活用
等

6 四大要素について

<四大要素2「学びがいのある魅力的な学習課題」について>

学習内容や学習計画については、この単元の初めの段階でおおよそつかむことにしている。この単元のゴールはリーフレット作りであるわけだが、そのまえの説明文読み取りの段階で、資料や具体例の使い方とどんな効果があるのかについて友達と考えを交流させる。その際、あって当たり前という意識の児童に、もし資料や具体例がなかったら、あるいは、なぜ課題を挙げる必要があるのかといった投げかけをすることにより、追究意識を持続させ「考えたい」「考える必要感」を持てるようにしていきたい。

<四大要素4「親和的な学級集団」にするために>

挙手をしての発表が一番良いのであるが、挙手をしていなくてもふと出たつぶやきを大切にしながら授業を進めていきたい。そして、発言の内容については気づきのよさを認め褒めながら、別の児童の考えを聞いたり、続きを話させたり、同じ意見であっても自分の言葉で言わせたりしていく。また、一斉の中ではなかなか話せない児童もいるので、一人一発言で隣席の友達に話させるなどして、自信をつけさせると共に 根拠のある考えを持つようにさせてたい。

7 学習・評価計画(総時数9時間 本時5/9)

時間	学 習 活 動	観 点 別 評 価			
		関心/意欲/態度	話す・聞く	書 く	読 む
4	資料や具体例の使い方やその効果に注意しながら本論2の内容を読み取る。				図や図やグラフを用いることの意義や効果を理解し、説明の内容を読み取っている。
5 本 時	結論の部分から筆者の意見を読み取り、まとめる。				文章全体の説明を踏まえて、筆者の意見をまとめている。
6	リーフレット作りに向けて、自分の課題を決め、資料を収集する。	課題を決め、意欲を持って、調べようとしている。		自分の課題に沿って、必要な材料を集めている。	

7 板書計画(別紙)

8 本時のねらい

- 結論部分から筆者の意見を読み取り、まとめることができる。

9 指導過程

学習内容・活動	形態	時間(分)	○ 教師の支援 □ 言語活動充実の工夫 ☆ 評価
<p>1. 本時の課題をつかむ。</p> <p>筆者は、私たちにどのようなことを述べたかったのだろう。</p>	一 斉	5	<p>□ 前時までの学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。その際、題名について触れ、筆者の言う「未来」とはいつのことなのか考えさせることで、それは遠いものではなく自分たちに向けられていることであることに気づかせる。</p>
<p>2. 学習場면을音読する。</p> <p>・ 本時に関わる部分を読む。 結論部分⑭⑮(2回)</p> <p>3. 筆者の意見を読み取る。</p> <p>(1) ⑭段落…「平和で安定した社会を、次の世代、さらに次の世代へとつないでいくこと、それがわたしたちの使命であり、義務なのです。」とは、どういうことか話し合う。</p> <p>(2) ⑮段落…筆者の意見をまとめる。</p> <p>・ 筆者の意見を100字程度でまとめる。</p> <p>(例)「身近な生活でできることを積み重ねていきながら、少しずつ自然のエネルギーを使う方法に切りかえていく必要がある。『持続可能な社会』の実現は、自然の豊かなめぐみの一部を活用するというくふうや知恵から始まる。」</p>	<p>一 斉 個</p> <p>ペ ア 等</p> <p>個</p>	<p>5</p> <p>30</p>	<p>○ 結論部分⑭⑮を読み、筆者が最も言いたいことはどんなことか、それが分かる言葉や文(キーワード)に線を引きながら読むよう助言する。(1回目一斉読み、2回目竹の子読み)</p> <p>□ 「平和で安定した社会」とはどんな社会なのか、「つないでいく」とは何をつなぐのか、の意味について近くの友達と話し合わせることで、筆者の考えに迫るようにさせる。</p> <p>○ ⑭段落に出てくる「使命・義務」について書かれているのはどこなのか問い、具体的に述べているのが⑮段落であることに気づかせることで、筆者の意見は⑮段落にありそうだと予想させる。</p> <p>○ 筆者が自分たちに求めていることは、「身近な生活でできることを積み重ねること」「自然のエネルギーに切りかえること」の二点にあることを確認し、筆者の考えを100字程度でまとめさせる。</p> <p>○ 早く書き終わった児童には、友達がどのようにまとめたのか互いに読み合いをさせ、友達のまとめ方の良さに気づかせる。</p> <p>○ 自力でまとめられない児童には、キーワードを入れる形の用紙に書かせる。</p> <p>☆ 筆者の意見をまとめることができたか。(ワークシート・発言)</p>
<p>4. 本時を振り返り、次時からの学習について確認する。</p>	一 斉	5	<p>○ 全文を学習して残った疑問や、新たに調べてみたいことなどから、次時からのリーフレット作りにつなげる。</p>

7 板書計画

未来に生かす自然のエネルギー
牛山 泉

㊦ 筆者は、私たちにどのよう
なことを述べたかったのだろう。

未来
五十年後の私たち

㉔ 平和で安定した社会を、次の世
代、さらにその次の世代へとつな
いでいくこと、それがわたしたち
の使命であり、義務なのです。

「平和で安定した社会」
「つないでいくこと」
「使命・義務」

← 筆者の意見

例

㉕ 「身近な生活でできることを積み重
ねていきながら、少しずつ自然のエ
ネルギーを使う方法に切りかえてい
く必要がある。『持続可能な社会』
の実現は、自然の豊かなめぐみの一
部を活用するというくふうや知恵か
ら始まる。」

小学校 6年 国語科 「『持続可能な社会』への取り組みについて調べよう」の実践

相馬市立大野小学校 遠藤 知美

自己テーマ	視点を明確にした読む・話す・書く活動を通して、思考力・判断力・表現力を育むことができる授業
-------	---

思考力・判断力・表現力を高めるためには、①魅力ある課題の提示 ②ねらいに結びつける視点を明確にした言語活動が重要な鍵となることから、児童が何のためにこの教材に取り組むのか(魅力ある課題)、誰に向けての発言や資料作りなのか(視点を明確にした言語活動)といった目的意識や相手意識を明確にしての話合いや学び合いを進めていくことが重要であると考えた。

東日本大震災を経験した後であっても、子どもたちはエネルギー問題の切実な現状は実感できていないと考えられる。本教材を通して今のエネルギー問題の実態を理解し、「持続可能な社会」の実現のために、未来を担う者として何をすべきなのかを必然的に考えるよききっかけである。

この教材は、自然のエネルギーの活用についてリーフレットにまとめることを学習のゴールに設定している。文章を読み取る学習では、資料や具体例の使い方とどんな効果があるのかについて友達と考えを交流させる中で、言語活動の充実を図る。また、リーフレット作りでは、自分の調べたことを読む人に分かりやすく伝えるには、どう工夫したらよいか(どんな資料を使うか)を意識させて作ることで、思考力・判断力・表現力を育んでいきたいと考えた。

1 育てたい思考力・判断力・表現力

- (1) 資料や具体例と叙述を照応させ、その効果を考える力 (思考力・判断力)
- (2) 筆者の意見から自分の考えを持つ力 (思考力・判断力)
- (3) 自分の課題解決のために情報を収集をする力 (判断力)
- (4) 読む人に自分の伝えたいことが分かりやすいリーフレットを作る力 (表現力)

2 「言語活動」の工夫

- (1) 学びがいのある魅力的な学習課題

この単元のゴールはリーフレット作りだが、前半の説明文読み取りの段階で、資料や具体例の使い方とどんな効果があるのかについて友達と考えを交流させる。その際、資料があつて当たり前という意識の児童に、もし資料や具体例がなかったら、あるいは、なぜ課題を挙げる必要があるのかといった投げかけをすることにより、追究意識を持続させ「考えたい」「考える必要感」をもてるようにしていく。

- (2) 親和的な学級集団

挙手をしての発表が一番良いのであろうが、挙手をしていなくてもふと出たつづやきを大切にしながら授業を進めていきたい。そして、発言の内容については気づきのよさを認め褒めながら、別の児童の考えを聞いたり、続きを話させたり、同じ意見であっても自分の言葉で言わせたりしていく。また、一斉の中ではなかなか話せない児童もいるので、隣席の友達に話させる(一人一発言)などして、自信をつけさせると共に根拠のある考えをもつようにさせていく。

3 実践の結果

※注

- 本時に関わる結論部分の音読の際、竹の子読みをさせることにより、どれだけの子が㊸段落に目を向けているかを確認することができた。
- 前時までに使ってきた文章構成図や要点をまとめたワークシートを活用することで、キーワードとなる「平和で安定した社会」や「使命や義務」といったことの内容が書かれあるのが㊸段落であり、それをまとめると筆者の意見になることに気づくことができた。
- 筆者の意見をまとめさせる際、100字程度という字数制限はさせたが、教科書文中にある『持続可能な社会』という言葉を入れるなどの条件を出すと、よりスムーズにねらいに近づけたかと思う。



キーワードはどの言葉?

※ 竹の子読み…参考図書 『論理が身につく「考える音読」の授業 説明文のアイデア50』

桂 聖 編著、「考える音読」の会 著東洋館出版社

第6学年 国語科学習指導案

平成24年11月15日 第5校時
場所 6年教室 指導者 遠藤 知美

研究テーマ	視点を明確にした読む・話す・書く活動を通して、思考力・判断力・表現力を育むことができる授業
授業テーマ	キーワードを手がかりにさせることにより、筆者の意見を読み取ることができる授業

1 単元名 「持続可能な社会」への取り組みについて調べよう —『未来に生かす自然のエネルギー』 牛山 泉 —

2 単元設定の理由

児童はこれまで5年生の「森林のおくりもの」で、題名の工夫や述べ方に注意して読み要旨を読み取ることや、その後のブックガイド作りを経験してきた。また、6年生になっては「イースター島にはなぜ森林がないのか」の説明文学習で、事実と意見を区別しながら筆者の主張を読み取り、それに対する自分の考えを持つ学習をしてきている。少しずつ筆者の考えやそれに対する自分の考えを持つことや、それまでの学習を基にして自分の課題を何かの形にまとめる力がついてきている。だが、筆者の主張や意見を的確に読み取る力がまだ不十分と見られる。そこで、しっかり文章全体を読み込むこと、そして単元を通して、視点を明確にした読む・話す・書く活動を意図的に取り入れながら学習を進めていきたいと考えた。

本単元は、資料の示し方や具体例の挙げ方に注意して、筆者の考えを読み取ることが中心的なねらいになっている。その上で、目的や方法にあった調べ方を考えて、いろいろな資料や情報源の特徴を知って適切に活用し、複数の資料から分かることを関係づけることによって問題に対する考えを深めていく。環境問題が叫ばれる中、「こまめに電気を消す」等の実践をしている児童は多いが、反面、東日本大震災を経験した後であってもエネルギー問題の切実な現状は実感できていないとも考えられる。この時期に、エネルギー問題を扱う教材に出会わせることは、子どもたちが問題意識を持って自分たちのこととして取り組んだり、思考力を養ったりするのに適した教材と言える。

この教材は、自然のエネルギーの活用についてリーフレットにまとめることを学習のゴールに設定している。説明文で資料や具体例に注意して筆者の意見を読み取り、次の段階で、自分の課題を調べて情報を整理し、リーフレットにまとめて交流する、という流れになっている。文章を読み取る学習では、資料や具体例の使い方とどんな効果があるのかについて一つ一つ視点を定めながら友達と考えを交流させる中で、言語活動の充実を図っていきたい。また、リーフレット作りでは、自分の調べたことを相手に分かりやすく伝えるにはどう工夫したらよいかを意識させたい。そうすることで、思考力・判断力・表現力を育てていきたいと考える。

3 単元における指導目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- エネルギー問題に関心を持って読み、必要な情報を得るために進んで複数の資料で調べようとしている。

(2) 読む能力

- ◎ 資料や具体例の示し方に注意しながら、筆者の意見を読み取っている。(C(1)イウカ)
- ◎ 自分の課題を解決するために、複数の資料を読んで情報を得ている。(C(2)イ)
- 自分の課題を解決するために、資料の特徴を生かして選んで読んでいる。(C(2)イ)

(3) 書く能力

- 書く材料を決め、複数の資料から書く事柄を集めている。(B(1)アエ)
- 資料の示し方や具体例の挙げ方を工夫してリーフレットにまとめている。(B(2)イ)

4 学習・評価計画 (総時数9時間 本時5/9)

時間	学習活動	観点別評価			
		関心/意欲/態度	話す・聞く	書く	読む
4	資料や具体例の使い方やその効果に注意しながら本論2の内容を読み取る。				図や図やグラフを用いることの意義や効果を理解し、説明の内容を読み取っている。
5 本時	結論の部分から筆者の意見を読み取り、まとめる。				文章全体の説明を踏まえて、筆者の意見をまとめている。
6	リーフレット作りに向けて、自分の課題を決め、資料を収集する。	課題を決め、意欲を持って、調べようとしている。		自分の課題に沿って、必要な材料を集めている。	

5 板書計画

例

②⑤ 「身近な生活でできることを積み重ねていきながら、少しずつ自然のエネルギーを使う方法に切りかえていく必要がある。『持続可能な社会』の実現は、自然の豊かなめぐみの一部を活用するというくふうや知恵から始まる。」

筆者の意見 ←

「使命・義務」

「つないでいくこと」

「平和で安定した社会」

②④ 平和で安定した社会を、次の世代、さらにその次の世代へとつないでいくこと、それがわたしたちの使命であり、義務なのです。

未来

五十年後の私たち

②④ 筆者は、私たちにどのようなことを述べたかったのだろうか。

牛山 泉

未来に生かす自然のエネルギー

6 本時のねらい

- 結論部分から筆者の意見を読み取り、まとめることができる。

7 指導過程

学習内容・活動	形態	時間(分)	○ 教師の支援 □ 言語活動充実の工夫 ☆ 評価
1. 本時の課題をつかむ。 実際1 言語活動② 筆者は、私たちにどのようなことを述べたかったのだろう。	一斉	5	<input type="checkbox"/> 前時までの学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。その際、題名について触れ、筆者の言う「未来」とはいつのことなのか考えさせることで、それは遠いものではなく自分たちに向けられていることであることに気づかせる。
2. 学習場面を音読する。 ・本時に関わる部分を読む。 結論部分④⑤(2回)	一斉	5	<input type="checkbox"/> 結論部分④⑤を読み、筆者が最も言いたいことはどんなことか、それが分かる言葉や文(キーワード)に線を引ながら読むよう助言する。(1回目一斉読み、2回目竹の子読み)
3. 筆者の意見を読み取る。 (1) ④段落…「平和で安定した社会を、次の世代、さらに次の世代へとつないでいくこと、それがわたしたちの使命であり、義務なのです。」とは、どういうことか話し合う。 実際2、3 言語活動② (2) ⑤段落…筆者の意見をまとめる。 ・ 筆者の意見 を100字程度でまとめる。 実際4 言語活動② (例)「身近な生活でできることを積み重ねていきながら、少しずつ自然のエネルギーを使う方法に切りかえていく必要がある。『持続可能な社会』の実現は、自然の豊かなめぐみの一部を活用するというくふうや知恵から始まる。」	個別 ペア等 個別	30	<input type="checkbox"/> 「平和で安定した社会」などはどんな社会なのか、「つないでいく」とは何をつなぐのか、の意味について近く友達と話し合わせることで、筆者の考えに迫るようさせる。 <input type="checkbox"/> ④段落に出てくる「使命・義務」について書かれているのはどこなのか問い、具体的に述べているのが⑤段落であることに気づかせることで、筆者の意見は⑤段落にありそうだと予想させる。 <input type="checkbox"/> 筆者が自分たちに求めていることは、「身近な生活でできることを積み重ねること」「自然のエネルギーに切りかえること」の二点にあることを確認し、筆者の考えを100字程度でまとめさせる。 <input type="checkbox"/> 早く書き終わった児童には、友達がどのようにまとめたのか互いに読み合いをさせ、友達のまとめ方の良さに気づかせる。 <input type="checkbox"/> 自力でまとめられない児童には、キーワードを入れる形の用紙に書かせる。 ☆ 筆者の意見をまとめることができたか。 (ワークシート・発言)
4. 本時を振り返り、次時からの学習について確認する。	一斉	5	<input type="checkbox"/> 全文を学習して残った疑問や、新たに調べてみたいことなどから、次時からのリーフレット作りにつなげる。

8 単元構想（総時数 9 時間）

時	学 習 活 動	学 習 の ね ら い
1 全文を通読し、初発の感想を持つ。		
1	◇ 全文を通読し、大まかな内容をつかみ、初発の感想を持つ。 <div style="text-align: right;">言語活動 ①</div>	○ 文章の内容を大まかにつかみ、学習の見通しを立てることができる。
2 資料や具体例に注意して筆者の意見を読み取る。		
2	◇ 序論の部分から、全体の話題をつかむ。 <div style="text-align: right;">言語活動 ①</div>	○ 文章全体の構成をつかみ、提示されている話題を読み取ることができる。
3	◇ 資料や具体例の使い方やその効果に注意しながら本論 1 の内容を読み取る。 <div style="text-align: right;">言語活動 ①</div>	○ 資料や具体例の使い方やその効果に注意しながら本論 1 の内容を読み取ることができる。
4	◇ 資料や具体例の使い方やその効果に注意しながら本論 2 の内容を読み取る。 <div style="text-align: right;">言語活動 ①</div>	○ 資料や具体例の使い方やその効果に注意しながら本論 2 の内容を読み取ることができる。
5 本 時	◇ 結論の部分から筆者の意見を読み取りまとめる。 <div style="text-align: right;">言語活動 ②</div>	○ 結論部分から筆者の意見を読み取り、まとめることができる。
3 自分の課題について調べ、情報を整理する。		
6	◇ リーフレット作りに向けて、自分の課題を決め、資料を収集する。	○ リーフレット作りに向けて、自分の課題を決め、資料を収集することができる。
7	◇ 複数の資料や情報を参照し、複数の資料から分かることを関係づける。 <div style="text-align: right;">言語活動 ③</div>	○ 複数の資料から必要な情報を読み取り自分の考えを深めることができる。
4 成果をリーフレットにまとめて交流する。		
8	◇ 資料の示し方や具体例の挙げ方を工夫して、リーフレットにまとめる。 <div style="text-align: right;">言語活動 ③④</div>	○ 資料の示し方や具体例の挙げ方を工夫して、リーフレットを作ることができる。
9	◇ リーフレットを読み合って、成果を交流する。 <div style="text-align: right;">言語活動 ③④</div>	○ リーフレットを互いに読み合い、感想や評価を伝え合うことができる。

<本単元での言語活動>

- ① 資料や具体例と叙述を照応させ、その効果について根拠を明らかにして述べさせる。
- ② 筆者の意見の読み取り。
- ③ 相手に分かりやすいリーフレット作り。
(資料の活用と書き方)
- ④ 「今の自分にできること」等、自分の考えの発信。



<授業の実際>

I 本時の授業から ～自己テーマ「視点」に関わる言語活動の工夫を中心に～

実際 1

筆者のいう「未来」とはいつのことなのかについて考える。

- 導入の段階で、筆者が題名で挙げている「未来」がいつのこととするのかをはっきりさせることにより、自分たちに向けられているメッセージであることに気づかせた。それは遠いことではなく 50 年後に迫ってきている切実な問題であり、自分たちがなんとかしなければならぬことである。つまり、生かすつないでいくのは自分たち自身だということである。これは、筆者の意見につながるものであることを意識させることにもなった。

実際 2

「平和で安定した社会」とはどんな社会なのか、「つないでいく」とは何をつなぐのか。

「平和で安定した社会」について

- これは、「平和」と「安定」の二つに分けて問うべき言葉であった。まとめて考えさせてしまったために、子どもたちに混乱をさせてしまった。「平和」の方は戦争のない社会と引き出せたが、「安定」の方は風力発電や太陽光発電の不安定さを想起させてしまい、環境を大切にすることやエネルギーをうまく使うことことから離れてしまった。

「つないでいく」について

- 自然のエネルギーを上手に組み合わせて使っていきことや、使い切りエネルギーは大切に使って残す、自然エネルギーの課題を解決することが次の世代につなぐ解決策であることに結びつけるのが難しかった。



キーワードを確認

実際 3

「使命・義務」とはどういうことなのか、

- 「使命・義務」を、「平和で安定した社会を、次の世代、さらに次の世代へとつないでいくこと」と大きく捉えた子がほとんどで、筆者の意見は⑭段落にあると考えている子が多かった。⑭段落のみを読むならばそれでよいのだが、ここはこれまでの文章全体から筆者の意見をまとめるところなので、⑮段落に目を向けさせなければならない。子どもたちのおよそ三分の二が⑭段落に書いてあると考えていたのは、導入直後の音読(竹の子読み)をさせたときに見当がついていたので驚くことではなかったが、⑭段落で押さえたキーワードの具体的な内容が⑮段落に書かれてあることを再確認する必要があった。そこで、何人かのつぶやきから半ば強引に、また前時までに要点をまとめたものからもう一度考えさせることにした。



「使命・義務」の具体的な内容は⑭と⑮段落のどちらに書いてあるのかな。

実際 4

筆者の意見をまとめる。

- 筆者の意見をまとめる際には、それまでの授業の流れから㉔段落に意識が向いたと考えて書かせたわけであるが、数名は㉔段落から拾って書いた子もいた。筆者が自分たちに求めていることは、「身近な生活の中でできることを積み重ねていくこと」「自然のエネルギーに切りかえること」の二点をもう少し強くはっきり押さえるか、それら二つの言葉を使って書く、のように条件付けをして書かせると良かった。

字数制限の中で
筆者の意見をまとめる



Ⅱ 成果と課題 ～思考力・判断力・表現力を高めるための言語活動の充実に向けて～

- 一読するのに15分以上かかるとも長い説明文であるにもかかわらず、読み取りにかかる時間はわずか4時間である。その中で文章構成図を作り、要点をまとめ、筆者の意見を読み取るわけであるから、家庭学習での音読が十分できていないと難しい。そのため、この単元に入る前から事前に宿題で取り入れてきた。また、本時で取り入れた竹の子読みは、子どもが「ここ」と思うところで立って音読するので、子どもの考えている箇所がだいたい分かる。めあて確認後に竹の子読みをしたことで、㉔段落に意識を向けさせなければならぬことが早い段階で把握できて良かった。
- キーワードを基にした視点をいくつか子どもたちに投げかけていった。それらの言葉について考えていくことで、筆者の意見に近づけていったのではないと思う。
- ワークシートの活用は、何文字以内でのような条件をつけるときには有効であると考えられる。文字数を意識して書くことにより、大切な部分(キーワード等)を抜かさずにかつ簡潔に書けるようになるからである。今後も、条件のある文章の書き方は練習していく必要があろう。
- 本時は全体での話し合いは行ったものの、意見の交流という意味では不十分であった。先にも述べたが、「身近な生活でできることを積み重ねること」「自然のエネルギーに切りかえること」を入れるという指示を出して書かせた上で、自分の書いたものを互いに読み合う交流の場面や、書いた内容について意見を出し合う場面をもっと時間を割いて取るべきであった。
- 下位児には穴あきのワークシートを用意しておき、困っている場合にはそれを使わせていたので埋めることができた。しかし、中上位児の中には、言葉をつないでいく際前後がおかしくなり文章全体がまとまらないものがあった。本時は、その時間が足りずに校正できないで終わってしまった子がいたので考える時間と書く時間を十分に取る必要がある。
- この単元の最終的なゴールは、リーフレットを作成することである。本時の終末にそのことを告げたときにあまり反応がなかった。何のために、何についてリーフレットを作るのかという明確な目的や視点を単元導入時から常に意識させておくのと良かったと考える。时期的に、総合の時間に取り組んできた「相馬の復興について」と重なる部分があったため、興味関心を持って取り組めるものではあったが、下位児童にとっては難しかった。
- 再生可能エネルギーについてはニュースや新聞で時々目にするにはあるが、子どもたちにとっては意識させないとなかなかアンテナにかかってこないものである。この単元に入る前から早い段階で、朝・帰りの会や総合の時間などと合科的、意図的に取り組んでくると良かった。そして、子どもたち自身が自分たちで資料を収集できる環境や意識を整えておくことでより一層自分のこととして考えられたであろう。



完成したリーフレット

